R7 兵庫県立明石南高等学校 学力向上実践研究成果レビュー

テーマ	生徒の主体性を高め、思考を深めるための組織的な授業改善

令和7年度末の到達目標（令和7年5月段階での目標設定）

生　徒	教科横断的な学習活動で主体性を発揮し、問題解決に係る学力を形成する。
教　員	プラクティカルな問題解決を念頭に教科横断的な授業作りの意識を醸成する。
学　校	「明南スキル」の伸長を生徒・教員が共に主体的に目指すような体制づくり。

令和7年度末の到達目標の達成状況（令和8年1月段階）

生　徒	いくつかの教科横断授業の中で主体性を発揮した。
教　員	教科横断の実践を通して、より「総合」的な授業づくりの可能性を認識し、今後の授業改善の要素とする意識が醸成された。
学　校	昨年度確認した「主体性」の様々なあり方を念頭に、「主体的な学び」の多様なアプローチを試行・実践する体制の素地が整えられた。

R7 兵庫県立明石南高等学校 学力向上研究成果レビュー

以下の項目について、各1枚スライドを作成

1　現状の調査分析と課題

2　現状の課題への対応及び研究活動実績

3　研究活動による成果

4　今後の課題と展望

R7 兵庫県立明石南高等学校 学力向上研究成果レビュー

Ⅰ 現状の調査分析と課題

・生徒の現状と課題

明南スキルについて、今後自己評価プロセスの中に明確に「目標設定」を行う機会を設定し、目標の設定と振り返りを繰り返すポートフォリオ的サイクルに乗り始めている。次の段階として、自己評価の時期を定期考査後など振り返り意識の高い時期に充てることで、より効果的な自己評価にしていく議論がある。

・教員の現状と課題

昨年度、主体性の様々な側面について認識したことで、主体性を引き出す学びについての多様なアプローチとその可能性について議論を深めることができている。今年度は、より現実的な問題解決の場面を想定して教科横断的な取り組みを進め、各教科担当が積極的に試行・実践を行った。次の段階として、教科同士の単純なコラボレーションではなく「総合学科」明石南高校として共通のテーマを設定して全ての教科がそのテーマに向かっていくといった、教科横断の形を模索する。

R7 兵庫県立明石南高等学校 学力向上研究成果レビュー

２ 現状の課題への対応及び研究活動実績

○明南スキル

目標設定→振り返りのポートフォリオ的サイクルを設定し、それを反映できるシステムを構築した。具体的には、学期の前半に明南スキルに基づいた目標を設定し、後半にその達成度を振り返るフォームを作成した。今後については、定期考査後など、現状把握の解像度ならびに振り返りモチベーションの高い時期に設定することで、より質の高い自己評価を目指すなどの議論を行った。

○授業研究

「主体性」をテーマに教科横断的な手法に焦点を当て、実践を試行した。
具体的な内容については、右表を参照のこと。

テーマ	科目
算額（和算）	実践数学
	古典探究
AI meets the art	英コミュⅠ
	情報Ⅰ
近代日本の造形	日本近代史
	基礎造形
男女の役割の変化について	時事問題
	家庭基礎
3Dプリンタで燃料電池作成	理数探究
	情報
3Dプリンタで作品制作	素描
	情報

R7 兵庫県立明石南高等学校 学力向上研究成果レビュー

3 研究活動による成果

・明南スキル
　これまでの自己評価にポートフォリオ的性質が加わり、振り返りに具体性が表れてきた。

・「主体性」に関する教員の認識
　主体性の多様な側面に気づき、生徒の主体性を引き出すことを認識した。また、生徒の主体性そのものを計る方法にはさまざまなアプローチがありうることを認識した。

・教科横断の可能性拡充
　教科ごとのスタンドプレーになりがちな高校の授業現場において、教科を横断して授業づくりをするノウハウを共有することができた。また、これまでの授業の中でもカジュアルな教科横断が無数になされていることに改めて気づくことができた。

R7 兵庫県立明石南高等学校 学力向上研究成果レビュー

4 今後の課題と展望

○明南スキル

今後については、定期考査後など、現状把握の解像度ならびに振り返りモチベーションの高い時期に設定することで、より質の高い自己評価を目指すなどの議論を行っている。また、明南スキルの具体性をより高めるため、定期考査の点数やテスト勉強の取り組み自体の振り返りと組み合わせる形も模索していく。

○授業研究

「現実の問題解決はいつも教科横断的である」ことを念頭に、教科同士の単純なコラボレーションではなく「総合学科」明石南高校として共通のテーマを設定して全ての教科がそのテーマに向かっていく、といった教科横断の形を模索する。